

4-3 検討結果

1994年の渇水年における地下水位低下量の解析結果をもとに、地下水位の低下状況をモデル化して水分量の経時的な変化を検討した。

水分量の変化は、複数の土の不飽和特性曲線について得られることから地下水位の低下期間が異なる深度別に整理する。ここでは、第1帯水層に相当する地層を想定して検討した。

図4-5にモデル地盤1（現地採取砂質土と類似した粒度組成の土）の、図4-6にモデル地盤2（現地採取粘性土と類似した粒度組成の土）の検討結果を示した。

地下水位がGL - 1.0m ~ GL - 4.5mまで下がる場合を設定し、水分量の変化はGL - 1.0m ~ GL - 4.0mまで1mきざみで示している。

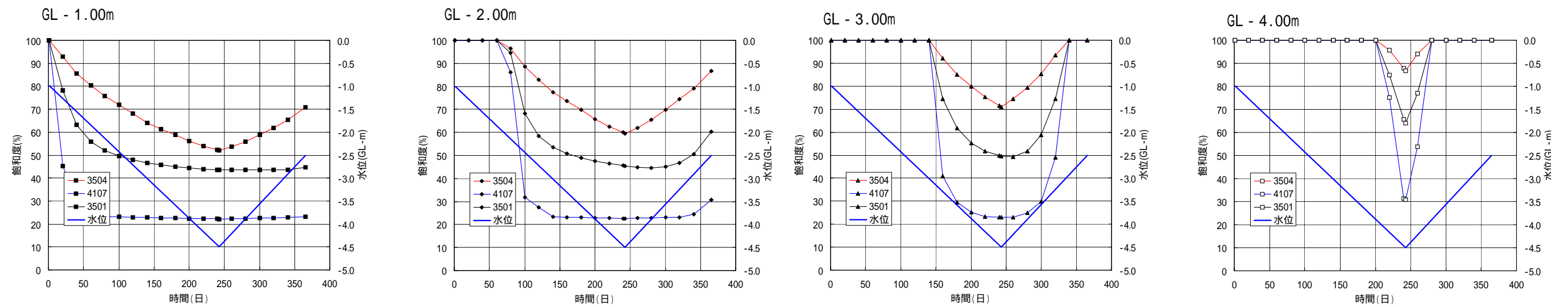


図 4-5 現地採取砂質土と類似した粒度組成の土の飽和度変化

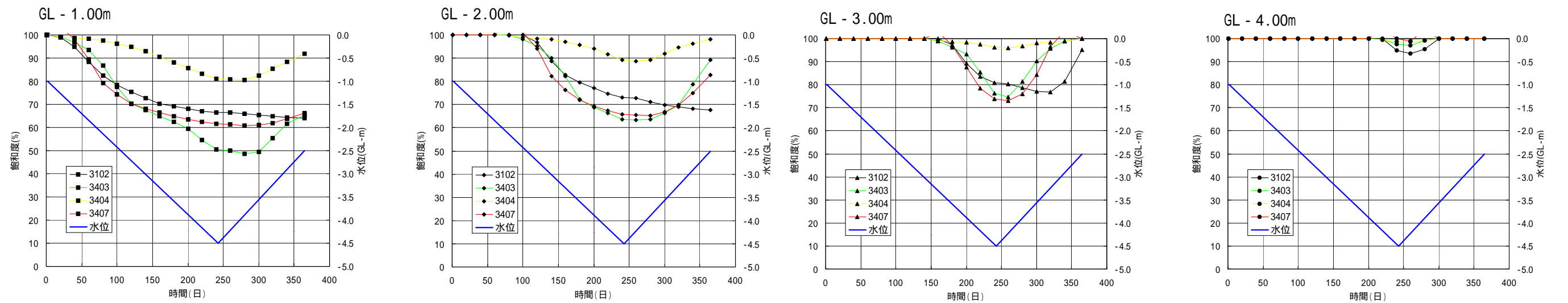


図 4-6 現地採取粘性土と類似した粒度組成の土の飽和度変化